

住みよいまちづくりへ

市民グループ発足

南足柄

「住みよいまちづくり」の実現を理念とする市民グループシンクタンク・ザ、市民（古屋治平代表）がこのほど南足柄市で立ち上がった。地域住民の声を行政に届けたいと、今年に入り本格的な活動を始めた。

同グループの特徴は、行政機関と議会機関に政策立案・提言をするシンクタンクと、市民への不利益な行為を監視して是正を求めるオンブズマンの役割を兼ね備える点。両者の機能を持つ組織は、全国的にも珍しい試みだという。

発足は昨年11月。「自分たちの意見を託した首長や議員が、選挙時の公約をかたちにしてくれない」という考えに賛同したメンバーが集まって、立ち上がった。

副代表の奥津晋太郎、事務局長の古屋富雄両氏はそれぞれ小田原と南足柄市の元幹部職員。

これまで培った行政に関する深い知識と経験を生かし、執行者へ市民の声を届けるという。

このほか会社経営者の役員に加え、アドバイザーには、弁護士や司法書士、土地家屋調査士など、専門知識を持った有識者も加わり、それぞれの立場からこそ分かる現状や課題を見つけ、まちづくりに寄与していきたい考え。

同グループの質問に対する行政側からの回答は、原則公文書とする。職員や議員の能力向上にもつながり、国や県などへ吸い上げた意見を的確に伝えられるなど、地方行政発展への効果に期待を寄せている。



住みよいまちづくりを目指して活動する「シンクタンク・ザ、市民」のメンバーら

直近の活動としては、子育て世代の女性が安心して子供を産み、育てられる環境を整えることを目的とし、行政に対して支援策の向上などに力を入れる。

市民から集まった声が生かされた、市民主体の住みよいまちづくりを市民主体で進めていきたい考え。

また、メンバーらは活動モデルケースとして広く紹介し、シンクタンクとオンブズマンの融合した組織のメリットを周知する。

住民が望むまちづくりが遅々として進まない状況は、全国各地の市町村で問題となっており、取り上げられる事例が多い。

同グループでは、各地で同様の組織が発足することで、課題解決の糸口になればいいと意欲的。